

外通(信) from マラウイ No.6

昨年1月に、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊員として、アフリカの マラウイに派遣された小河原香織さん(市内野上出身)から、最後のお便りが 届きました。





トライすることの怖さ。これはこの文章を書き始め た時のタイトルです。

青年海外協力隊として活動することを決めた時、私 は2つの応援をもらいました。

1つ目は、「なぜ今、アフリカに行く必要があるの か」任地であるシャープバレに1人で生活するように なり、家に石を投げ入れられた時、この質問は私に とって、とても重要なものになりました。この問いか けは、「日本にいる時には、直に接することはなかった 差を受け入れた上で、ここで無事に生活を続けていく には、どうしたらいいのか」を真剣に考えるきっかけ となったからです。

2つ目は、「いい選択をしたね。いってらっしゃい」 という言葉。TDC (教師研修センター) の人々に出 会った時、彼らの存在を知るために私はここに来たん だと素直に思えたから。

この文章を書くにあたって、私はひどく悩みまし た。自分の文章を書く力が乏しいのは、誰よりもわ かっていたからです。

これまでずっと、この文章はアフリカで活動をする ことを見送ってくれた子たちに向けて書いてきまし た。その中の1人は、別れの日一度帰路について再び 引き返し、別れの言葉を告げに戻ってきてくれまし た。その言葉は、聞いているこちらが恥ずかしくなる くらい純粋なものでした。しかし私は、彼女から目を 背けることができませんでした。なぜなら、彼女はと ても真剣に信頼を寄せてきていたから。

今私は、彼らに気軽に何かを試してみろとは言えま せん。物事は必ず、表裏一体だと思うから。ここに来 るきっかけとなった本については以前、君たちに伝え たことがあります。

最後にマラウイで探究している中で出会った言葉を 紹介して、あなた方へのこの手紙を終わりにしようと 思います。

「知ることの深さは愛することへの道」

私は何も知らなかったことに気がつき、忘れられな い経験を得ました。

職員のつぶやき~職員リレートーク~

子育て支援室の鈴木佑衣です。冬が近づき、朝起き るのが辛い時期になってきましたが、毎朝大貫さんと 一緒に元気に職場へ向かっています。

私の担当は、児童手当や出産祝い金など子育てに関 する業務が主なものです。採用から半年が過ぎて職場

環境や仕事にも慣れ、担当以外の業務に も積極的に取り組んでいます。業務の幅 が広がり、覚えることがたくさんありま すが、優しくて面白い上司や先輩方がい るので、毎日楽しく仕事をしています。

これから仕事をしていく中で様々な困 難にぶつかるかもしれませんが、笑顔を 絶やさず業務に励んでいきたいと思いま す。

福祉課の大貫真利江です。配属から半年が過ぎまし たが、業務内容やお客様への対応など、先輩方の姿を 見ながら勉強する毎日です。

最近感じるのは、人と関わる仕事の楽しさと難しさ です。窓口には様々なお客様が来ます。市役所職員に

> なる前は考えられなかった多く の出会いの中で、どのような言 葉でどのように話すのがわかり やすいのか、よりよい説明の仕 方を考えつつ、日々業務に取り 組んでいます。

お客様からの「ありがとう」 の言葉を大切に、これからも励 んでいきたいと思います。



▲鈴木さん(左)、大貫さん(右)